



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月14日

上場会社名 ネクストウェア株式会社

上場取引所

東

コード番号 4814

URL <https://www.nextware.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 豊田 崇克

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 管理部長

(氏名) 渡邊 博和 (TEL) 06-6281-9866

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	688	5.1	△78	—	△76	—	△78	—
2026年3月期第1四半期	655	△5.2	△96	—	△95	—	△94	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 △78百万円(—%) 2026年3月期第1四半期 △94百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△6.21	—
2026年3月期第1四半期	△7.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	917	681	74.2
2026年3月期	1,047	760	72.6

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 681百万円 2026年3月期 760百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	3,300	14.8	50	—	50	—	30	2.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2027年3月期1Q	13,015,222株	2026年3月期	13,015,222株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	308,719株	2026年3月期	308,719株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2027年3月期1Q	12,706,503株	2026年3月期1Q	12,706,503株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調が続いております。一方で、中東情勢の動向等、先行きに対する不確実性には引き続き注視が必要な状況にあります。

当社グループが所属する情報サービス産業では、企業の競争力強化を目的としたDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の需要が引き続き堅調に推移するとともに、AIを活用したAX（AIトランスフォーメーション）への関心が高まり、業務プロセスへのAI実装が広がりつつあります。一方で、クラウド利用の拡大やAI活用の進展に伴い、IT基盤の再構築、情報管理及びガバナンスへの対応に加え、未承認のAI利用（いわゆるシャドーAI）やランサムウェア攻撃などのセキュリティリスクへの備えも重要性を増しております。

このような環境のもと、当社グループでは、ソリューション事業において、次世代AI分野を中心とする共創・課題解決型事業へのリソースシフトを進めるとともに、エンターテインメント事業においては、公演展開の拡充やイベント出演機会の拡大等に取り組んでまいりました。

これらの取り組みにより、連結売上高は前年同期を上回りました。損益面につきましては、主にソリューション事業におけるリソースシフトによる収益性改善により、営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失はいずれも前年同期に比べ改善いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は688百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業損失は78百万円（前年同四半期は96百万円の損失）、経常損失は76百万円（前年同四半期は95百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は78百万円（前年同四半期は94百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、企業でのクラウド利用の拡大やAI技術の急速な進展を背景として、顧客のニーズが、単なるシステム開発・実装から、現場課題の発見、業務プロセスの変革、AIを活用した価値創出へと高度化・多様化しております。また、AI活用の拡大に伴い、シャドーAIへの対応や、ランサムウェア攻撃への備えを含め、情報管理、ガバナンス及びセキュリティ面の整備も重要な課題となっております。

当社グループでは、こうした顧客ニーズの変化に対応するため、従来型の受託開発を中心とした事業から、当社グループの強みであるエンドユーザー企業との対話を通じて課題を発見し、AIを活用して解決策を実装する共創・課題解決型事業への転換を行っております。

具体的な取り組みとしては、高セキュリティ用途に対応した信頼性の高いソリューションの提案を進め、バックドア等の不正な侵入経路となり得るリスクにも配慮し、機器選定からシステム構成まで慎重に対応しております。また、防災・道路・インフラ保全領域においては、防災情報の高度化・統合化ニーズが高まる中、AI機能を伴う総合防災情報システムの新基盤構築案件に取り組んでまいりました。さらに、国内公共インフラ施設の老朽化を背景としたドローン点検分野の実証検証や、AIカメラによる顔認証分野に加え、周辺機器異常予兆監視においてもAIを活用した新たなサービスの開発も進めております。

業績面では、次世代AI分野を中心とする共創・課題解決型事業へのリソースシフトを進めた結果、収益性が改善し、セグメント損失は前年同期に比べ縮小いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるソリューション事業の売上高は507百万円（前年同四半期比0.8%増）となり、セグメント損失は58百万円（前年同四半期は77百万円の損失）となりました。

② エンターテインメント事業

エンターテインメント事業におきましては、連結子会社である株式会社OSK日本歌劇団において、東京・京都で「レビュー 春のおどり」を開催するとともに、地方公演や海外公演への取り組みを進めてまいりました。

主力公演である「レビュー 春のおどり」では、東京・京都の2地域で公演を実施するとともに、京都南座公演を2部構成とすることで公演内容の充実を図りました。また、国内外での公演やイベント出演機会の拡大に加え、オンライン配信による観劇機会の拡大にも取り組みました。7月18日及び19日には、当劇団として初となる博多座において「レビュー 夏のおどり」を開催し、全公演が満員御礼となるなど、好評を博しました。

業績面では、公演展開の拡充やイベント出演機会の拡大等により、売上高は前年同期を上回りました。一方で、地方公演や海外公演など活動領域の拡大に伴う運営費用の増加により、セグメント損失は前年同期と概ね同水準となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は181百万円（前年同四半期比19.4%増）、セグメント損失は19百万円（前年同四半期は19百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は917百万円となり、前連結会計年度末に比べて129百万円減少しました。これは主として、現金及び預金が44百万円、仕掛品が13百万円それぞれ増加した一方で、売掛金及び契約資産が136百万円、流動資産その他が44百万円それぞれ減少したことによります。

負債合計は236百万円となり、前連結会計年度末に比べて50百万円減少しました。これは主として、買掛金が32百万円減少したことによります。

純資産合計は681百万円となり、前連結会計年度末に比べて78百万円減少しました。これは利益剰余金が78百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月15日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	289,448	334,096
電子記録債権	7,449	7,328
売掛金及び契約資産	375,400	239,330
商品	5,571	4,059
仕掛品	2,301	15,321
貯蔵品	4,876	4,876
その他	103,218	59,023
流動資産合計	788,266	664,035
固定資産		
有形固定資産	64,364	65,597
無形固定資産	53,530	50,334
投資その他の資産	141,149	137,949
固定資産合計	259,044	253,882
資産合計	1,047,311	917,917
負債の部		
流動負債		
買掛金	90,121	57,152
未払法人税等	13,784	5,494
その他	172,447	163,216
流動負債合計	276,352	225,863
固定負債		
退職給付に係る負債	4,529	4,529
資産除去債務	5,515	5,516
その他	834	840
固定負債合計	10,880	10,887
負債合計	287,232	236,750
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,310,965	1,310,965
資本剰余金	229,198	229,198
利益剰余金	△675,459	△754,370
自己株式	△104,625	△104,625
株主資本合計	760,078	681,167
純資産合計	760,078	681,167
負債純資産合計	1,047,311	917,917

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	655,325	688,708
売上原価	538,669	542,603
売上総利益	116,655	146,104
販売費及び一般管理費	213,159	224,697
営業損失(△)	△96,503	△78,593
営業外収益		
受取利息	46	7
受取配当金	240	320
為替差益	584	—
貸倒引当金戻入益	367	—
受取保険金	—	1,852
その他	304	609
営業外収益合計	1,542	2,788
営業外費用		
支払利息	29	25
支払保証料	149	149
消費税等差額	193	138
その他	—	61
営業外費用合計	372	375
経常損失(△)	△95,334	△76,179
特別損失		
固定資産除却損	79	—
特別損失合計	79	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△95,413	△76,179
法人税、住民税及び事業税	1,723	1,620
法人税等調整額	△3,077	1,111
法人税等合計	△1,354	2,731
四半期純損失(△)	△94,058	△78,911
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△94,058	△78,911

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純損失(△)	△94,058	△78,911
四半期包括利益	△94,058	△78,911
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△94,058	△78,911

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	503,412	151,912	655,325	—	655,325
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,078	6,331	7,410	△7,410	—
計	504,491	158,244	662,736	△7,410	655,325
セグメント損失(△)	△77,101	△19,500	△96,601	98	△96,503

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	507,281	181,427	688,708	—	688,708
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,380	6,380	△6,380	—
計	507,281	187,807	695,088	△6,380	688,708
セグメント損失(△)	△58,659	△19,966	△78,626	32	△78,593

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	15,441千円	11,984千円